

ごあいさつ

大阪大学医学部附属病院
病院長 土岐 祐一郎

令和2年4月1日に病院長を拝命いたしました消化器外科教授の土岐 祐一郎でございます。関係各位の皆様には、平素より大阪大学医学部附属病院につきまして多大なるご支援をいただき、厚く御礼申し上げます。就任直前より新型コロナウイルス感染が世界的に広がり、病院長としてまずはその対策に全力を注ぐスタートになりました。令和2年9月の時点では感染拡大状況は大分落ちついてきております。現在は、感染の第二波に備えてできる限りの対策を取っております。患者さんや医療関係者の皆様には多大なるご迷惑をおかけしておりますが、そのような中でも大学病院本来の高度医療の推進に努めている次第です。

本院は、新しい医療を創出すべき病院として、厚生労働省から「臨床研究中核病院」に認定されています。この使命を達成するため、本院未来医療開発部では、再生医療をはじめとする先進的な医療を開発しています。このほかにも「がんゲノム医療中核拠点病院」、「AI ホスピタル」など、未来の医療を担う仕事を国から任されています。

さて、このたび本冊子を刊行するにあたり、令和元年度の本院の主な活動をご紹介します。まず、4月にAI（人工知能）基盤拠点病院構想を推進するため、「AI 医療センター」を開設しました。AI 基盤のモデル病院として、これまで以上に高度な診療、医療過誤の防止及び十分な患者さんとの対話を実現するため、様々なAI技術とシステムの開発・実証実験を進めています。また、がんや重症心不全などを治療中の患者さんが抱える様々な苦痛に対して多職種が連携してサポートできるよう、「緩和医療センター」を4月から開設しました。より質の高い緩和ケアが提供できるようになるとともに、手術や抗がん剤など、治療の向上にも繋がることを期待されています。さらに、厚生労働省から地域がん診療連携拠点病院（高度型）及び大阪府から大阪府小児がん拠点病院の指定を受けました。中核拠点病院としての責務を果たすべく、地域のがん診療を行う医療施設と協力し、がん医療に貢献していきます。

本院は吹田市に移転してからすでに27年が経過しており、病院再開発として新しい統合診療棟の建設に取り組んでおります。工事は令和3年に始まり令和7年の運用開始を目指す計画です。患者相談・患者支援の関連部署を集約した患者包括サポートセンターの設置、患者さんへの負担が少ない低侵襲診療機能の強化など、安心・安全・快適な療養環境の提供を目指しています。

本冊子をご覧いただいた皆様方におかれましては、本院の更なる発展に活かしてまいりたいと考えていますので、忌憚のないご意見をお聞かせいただければ幸いです。

最後に、本冊子の作成にあたり、ご協力いただいた関係者の方々に深謝申し上げます。